

安全10

安全とほほえみと夢を届ける鉄道マン



伊豆箱根鉄道株式会社
芹澤 章裕さん



三島駅に勤務する
堀江真人さん

「いずっぱこ」の愛称で親しまれている、伊豆箱根鉄道の駿豆線。「三島―修善寺」間19.8kmを結ぶ路線は、沿線地域の住民にとってはなくてはならない存在だ。3両編成の電車は、今日もみんなの安全と笑顔と夢を乗せて、のどかな田方平野を走り抜ける。

地域住民の「足」として

「おはようございます。行ってらっしゃい」。朝のラッシュ時になると、3両編成の電車は、会社へ向かう人たちがさまざまな制服姿の高校生でいっぱいになる。JR三島駅に接続し、沿線に多くの高校を擁す駿豆線は、その6割が定期利用者、つまり通勤・通学客という。

三島市大場に本社を構える伊豆箱根鉄道株式会社は、大正6年創業。中伊豆への玄関口・三島を発着点に修善寺までを結ぶ鉄道事業のほか、バスやタクシーなどの関連事業もあわせて、古くから地元住民の「足」として、生活を支え続けてきた。そんな地元密着の会社では、

「日頃の感謝と事業内容を知ってほしい」という思いから、年に一度、一般の人たちを対象にした「ふれあいフェスタ」を開催している。普段はなかなか入れない運転席に入ったり、運転士の能力テストに挑戦したり、バスに落書きしたり…。「私たちは地域とともに営んでいく会

社。小さいお子様には、こういうイベントで乗り方などを学び、楽しんでもらって、将来、通学や通勤で利用していただけたらうれしいですね」と広報課長の芹澤章裕さんは語る。また、小学生の親子には「親子電車教室」、学校単位では「電車工場見学」の受け入れなども



写真上・左/毎年、11月に大場にある本社で行われる「ふれあいフェスタ」は子どもから大人まで大勢の人でにぎわう。とくに、制服制帽着用で運転席に座ったりするなど、さまざまな体験コーナーは行列ができるほど人気。写真中/毎年、三島市内をはじめ沿線にある小学校の児童が描いた絵画を展示している。子ども達の楽しい絵が車内を和ませる。

実施。近年はグループ会社全体で「こども応援プロジェクト」を展開し、子どもたちの成長支援に力を入れている。

毎日の生活に 適度な快適を提供

「出発進行!」。駅に到着すれば、すばやく扉を開け、ホームをしっかりとチェック。一つ一つ声を出して指差確認する運転士の動きには、緊張感があってムダがない。駿豆線も、平成21年

出発進行〜!



からワンマン運転になったが、車両ドア近くにチャイムを設置して巻き込みや転落を防止するなど、安全対策には万全を期す。駅構内も少しずつバリアフリー化が進んでおり、ベビーカーでも安心だ。

また、バス事業では、幼稚園児を対象に、実際のバスを使っ

て交通安全の啓蒙活動を展開したり、燃料には植物由来のバイオディーゼルを使用したりするなど、安全と環境保全にも努める。みんなが安心して利用できる陰には、これらの地道な取り組みがあるのだ。

男の子の将来の夢として、上位にランクするのが「電車の運転士」。今も、「いつか伊豆箱根鉄道に入れるように、いっぱい勉強してがんばりたい」と、絵を送ってくれる子どももいるそう。実際、同社には鉄道好きな人間が多いという。三島駅勤務の新人・堀江真人さんもその一人だ。「安全第一はもちろん、適度な快適さを提供することで、皆さんが毎日の生活をつつがなく送るためのお手伝いをしていきたいです」。そうほほえむ顔は、すこし誇らしげでもある。

毎日、たくさんの人たちの足となり、いろいろな思いを乗せて走る「いずっぱこ」。車窓から望む雄大な富士山は、他地域の人たちに自慢したくなるほど美しい。

関連info

駿豆線の沿線は魅力がいっぱい!!

駿豆線沿線の魅力情報発信ホームページ「すんずせんでGO!」

伊豆箱根鉄道(株)と駿豆線沿線市町(三島市、函南町、伊豆の国市、伊豆市)が連携し、駿豆線沿線の名所・旧跡、自然、花、スポーツ施設、観光スポットに加え、沿線で実施されるイベントなどの情報発信も行っています。

「すんずせんでGO!」→<http://service.city.mishima.shizuoka.jp/mportal/sunzu/>

駿豆線沿線魅力めぐりウォーキング

駿豆線沿線の史跡や四季折々の花や自然などの魅力あるスポットをめぐる、各駅スタートのウォーキングイベントを、年間を通じて行っています。ご家族と一緒に外へ出てみるはいかがですか?

「伊豆箱根鉄道(株)ホームページ 沿線ウォーキングガイド」→<http://www.izuhakone.co.jp/railway/walking/>
お問合せ/三島市政策企画課 TEL:055-983-2698

